

母親という生き物

院長

今回はちょっと変わったテーマのように思えるかもしれませんが、5月5日はこどもの日ですが、その趣旨を知っていますか。祝日法第2条には定義として、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」と書かれています。こどもの日なのに、「母に感謝する」ということが含まれていることは意外でした。父に感謝するという言葉が入っていないことには、男女平等という視点からは異議が出る事かもしれません。しかしながら、今回のテーマで話をする立場としては、当然のことと感じています、また5月14日(日)は母の日で、由来は1907年アンナ・ジャービスが亡き母親を偲び白いカーネーションを贈ったことが起源とされています。

前置きは、この程度にして本題に入りましょう。「母親という生き物」というテーマは、なんとなく失礼な表現に聞こえるかもしれませんが、母親を語るにはこのテーマが最適と思っています。

母親はお腹に赤ちゃんを宿すと、子どもを守るための生活が始まります。胎児は羊水に浮かび、子宮というとても安全な部屋に守られ育っていきます。小学4年生の命の大切さを伝える性教育「赤ちゃんはどこからくるの」でも、母親から臍の緒を通して酸素も栄養ももらい、生まれる準備をしながら待っていると伝えています。胎児を守り続けることが母親に与えられた役目で、10ヶ月もの間誰にも代わることができません。



そんな母と子の臍の緒のつながりは、生まれてからも、見えない臍の緒でかたく結ばれているのです。それ故、出産直後から赤ちゃんを守るための生活が始まります。母親に守られることは赤ちゃんにとって素晴らしいことであり、大きな安心感と共に成長していくのです。

子どもを守り育てるという役割を担っていることが、時には冷静な判断をに影響を与えたり、不要な心配を抱えてしまう要素になるのです。子どもが笑顔で元気に遊んでいても高熱だけで心配する。自身の体調で食欲が落ちるのがわかっている、子どもの食欲が

なければ心配してしまうのです。家でぐったりしていて病院に着くなり元気を取り戻した子どもを目の前にしながら「おかしい」ということも。前日に40℃あった子どもが、解熱後に受診して大丈夫と言われても、以前の症状心配するのが「母親という生き物」なのです。



これは悪いことなんでしょうか。私は決してそうは思いません。皆さんも、自身の記憶を思い出してみてください。良いことと悪いことの記憶、どちらを覚えているでしょう。私は悪い記憶の方を覚えています。これは悪いことばかりしてきたということではありません。健康を実感した思い出よりは、肝炎で入院した、骨折で手術した、子どもの頃塀から落ちて何針も縫った、高校時代自転車で転倒して怪我をした等々。講演が上手くいったことより、途中で嘔んだ、PCの電池が途中で切れた、タイマーのセットを忘れた等々。その他、車で事故りそうになった、自損事故を起こした等々、悪い記憶ばかりです。皆さんは良い記憶の方が多いかもしれませんが、何故なのでしょう。自分を守るということは人間の本能であり、おそらく悪い記憶は自分を守るために役立つからなのでしょう。“失敗は成功のもと”、“転んでもただでは起きぬ”等々のことわざもあります。子どもを高いところに上らせたら落ちそうになった、急に道路に飛び出しひかれそうになった等、子育て中にも悪いことが起きそうなことは多々あります。このような悪い記憶を脳に刻み込んで、問題が起きないようにするのが「母親という生き物」の重要な仕事なのです。そんな理由から、良いことよりも悪いことに意識が向いてしまうのです。同じようなことは一般的なしつけにもみられ、悪いことをすれば叱るのですが、良いことは当たり前として見過ごしてしまいがちです。これも母親としては普通の対応で、子どもが悪い子に育たないようにと気にかけているのです。見方を変えれば、これも子どもを守るための母親の対応なのかもしれません。

母親は素晴らしい生き物です。子どもを守りながら育てることは、父親にもできることです。しかしながらどうやっても10ヶ月を埋めることはできないのです。「母親という生き物」だからこそ、悪いことに目が向いてしまうのは仕方がないことです。しかしながら、そのことが時として子どもだけでなく自分に対しても悪影響を及ぼすことがあることを理解しておきましょう。悪いことばかりに目が行くことは、母親にとってストレスになります。

子どもの良いことを見る、良いことはほめてあげることは子育てにとって大切なこととされています。時には母親という意識を捨てて、第三者的立場で客観的に見ることも子育ての極意です。この記事を参考にし、子どもを見る目について考えてみましょう。

5月のお知らせ

- ・臨時休診
13日(土) P.C 連合学会(香川)
ご理解ご協力をお願いします。
- ・東北大学医学部学生実習
12日(金)
ご迷惑をおかけするかもしれませんが、
よろしくをお願いします。
- ・栄養育児相談
10、24日(水) 13:30~



読者の広場

先月は6通のメールをいただきました。今回も嬉しく、印象深いメールを何通かいただきましたので紹介します。まずは青葉区の遠〇さんです。



「いつも大変お世話になっております。遠〇由〇2歳11カ月の母です。かわむらさんでは、定期的にうちを柔らかくするおくすりをもっているものです。4月1日深夜1時45分由菜が突然高熱を出し、ひきつけを起こし救急車で仙台市立病院へ運ばれました。その時点で40度の熱、その後インフルエンザA型にかかっていることがわかりました。ひきつけを抑える座薬をし、その8時間後にまたその座薬をして8時間痙攣などがでないかを様子みてました。痙攣はなく、てんかんなどは大丈夫だろうということになりました。2回目の座薬は自宅にてしています。現在も自宅での看病ですが、38度、39度と熱が高く不穏です。インフルエンザだから熱はそんなに早く下がらないのだと思う半面不穏でしょうがないです。いつもかわむらさんで予防接種をするのですが、今年はインフルエンザの予防接種を受けなかったのが悔やまれてなりません。なにを質問なのが、自分でもわからない文章ですが、産まれた時から、日頃熱心に診察して下さる先生に勝手ながら現状を伝えたくメールしました。また生後1ヶ月の新生児がいるため、深夜の救急搬送の際は主人と私の母親が付き添いました。」

このメールの有難いことは、文面にもありましたが質問や相談ではなく現状を伝えてくれたことです。相談でもないにもかかわらず現状を伝える必要はないかもしれません。ただかかりつけであるが故なのでしょう。現状を誰かに伝えるだけで、少しは気持ちが落ち着くのかもしれません。それが間接的な「お母さんの不安・心配の解消」を証明してくれています。ありがとうございます。

続いては大和町の吉田さんからのメールです。大和町は黒川郡で、仙台から20キロちょっと離れたところですよ。「おはようございます m(_ _)m 昨日はお世話になりました。看護師さんからの問診で、朝からの様子しが頭にありませんでしたが、先生にお話して、夜の熱が高かったこととかを思い出して…看護師さんにも話しておかなければならなかったよなあと反省でした。もしインフルとかだったら、周りの患者さんにもご迷惑がかかったかもしれないのに。ひさびさの高熱で私も動揺していたようです。きちんと伝えきれていなくてすみませんでした m(_ _)m 帰ってからもグツツリでしたが、坐薬を使って少し復活して、そして食欲も出てきて、やっと少し元気が戻っていました。今朝も36.3℃で落ち着いているので、このまま様子見ていきたいと思います。彩花は、高熱のときも幼稚園の夢を見ていたようで、手遊びをしていたり「帽子はどこ？(T_T)」と泣いていたいたりして、新生活でストレスなのかなあと私も心配しましたが、先生と話してスッキリしました！幼稚園は遊ぶところですよ！ストレスより楽しんでるんだなあと思うようにします(*^^*) ありがとうございます！ちなみに、昨日の朝は近くのかかりつけと、ちょっと遠くのかむら先生とどっちの病院に行くか聞いたら、彩花が「かわむら先生に行く」とグツツリしながら選んだんですよ！いつもありがとうございます m(_ _)m またよろしくお願いします。」

何より嬉しいのは、20キロ以上も離れたクリニックを子どもが選んでくれたことです。そして、こちらの方が遠くから来院するのを申し訳なく思っているのに、逆にお礼のメールをもらったことということです。

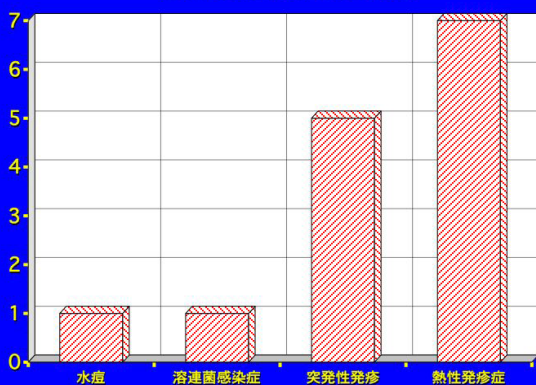
次はお馴染み秋田の浅野さんからです。今度は山形に転居して、ワクチン接種のためだけに来院。久しぶりに会う子どもたちの笑顔の中、ちょっとした楽しい時間を共有できました。写真を送ったら、次のようなメールが届きました。

「夜分失礼いたします。先生、早速のメールありがとうございました！こちらからお礼と思っていたところ、先生からご連絡いただき恐縮しつつ、とてもうれしかったです。急な予約、ご迷惑承知で電話してしまいました。すみません(T^T) 受け入れていただき、午後から先生のところへいく、と話したら二人ともやったあ！と(笑)。私はちょっと涙ぐんでしまいました。私も、こども達も引越して疲れ、やっと今日安心できた感じです。こども達もお時間つくっていただき…。不思議ですが、クリニックにうかがって今までの力抜け、ほっとしました。また何かありましたら、遠方ですが面倒みてください。それでは、先生、クリニックの皆様、本当にありがとうございました！どうぞまだ寒暖の差がある時節柄お身体気をつけてお過ごしください。」

60kmも離れた山形からワクチン接種のためだけに来ること、そして「やったあ」と言ってくれる子どもたちが、遠くに行ってもかかりつけの証明です。お土産ありがとうございます(^^)/



4月の感染症の集計



グラフでは特別な感染症は流行していませんが、カゼが流行しています。発熱、咳が目立つ感染症として、アデノ、ヒューマンメタニューモウイルスを検出しています。先月のインフルエンザの患者数は26人で減少しています。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、580人を越えるお母さんが登録。右のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。



最新情報はFBを見てください。MailNews Facebook
Mail News が届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

編集後記

今月号はGWでだらけてしまい、すっかり発行が遅れてしまいました。30日の休日当番の代休をもらい、珍しく5連休となったのですが、今年も近場での休暇となりました。皆さんのGWはいかがでしたか。天候に恵まれ、皆さんも楽しめたことでしょう。残念ながら、学会の準備と新聞作りに追われてのGWの後半でした。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！